

中核人材育成事業実証講義

「“攻め”と“守り”のファイナンス」

2月13日 於 食事苑京阪

(株)木村製作所 木村俊彦

2月13日、中核人材育成事業実証講義としてMOT講座vol. 5「“攻め”と“守り”のファイナンス」(講師:立命館大学 田尾啓一教授)が以下の内容にて実証講義が行われました。

- 1・財務の面から見た優良企業の条件
- 2・収益性を良くする
- 3・成長力を高める
- 4・財務の健全性を確保する
- 5・事例演習

財務の面で、連結ベースと単体ベースでの評価また、企業価値の実現とは何か？優良企業としての条件とは、いったいどういう事柄があてはまるのか？損益分岐点の話から、収益率を良くする為にはどうすればいいのか？実際の企業を例に挙げての学習でした。

金融機関の見方の変化とディスクロージャの重要性ということでは、今日までの担保主義から脱却し、企業の将来性と財務の健全性、リスク評価を審査しリスクに見合った貸し出し条件を設定する方向に進んでいる。中堅・中小企業融資を伸ばす必要性は高く、優良な顧客を積極的に開拓しようとしている。担保主義から、業種主義に変わってきている。

更に事例演習では、事実倒産した企業と勝ち組に残った企業とを実際の財務データに基づき参加したメンバーで、検討しました。

大手企業が M&A を繰り返して、吸収合併を繰り返し生き残りをかけている背景の中で、我々、中小企業が自社の財務状況において、今後どういったことを着眼点として、とらえていかなければならないか？

事例企業の 5 年間の財務データをみれば、倒産においやられるまでの資金繰りになるほどと思えるものであり、勝ち組企業はやはり収益を毎年あげている仕組みができています。日常業務に日々とらわれ、本来なら一番深く勉強していなければならない、また理解していなくてはならない事柄ではありますが、説明なしでは理解できない状況が私含め参加メンバーの大半であったように感じられました。改めて知識不足を思い知らされた反面、それに気付かされたことが大変勉強になった講義でした。